

日本語とタイ語の天気を表す言葉の相違点

Thongtawee Tarm

はじめに

言語において、その話者の社会が何かに深く関わっていると、それを表現する微妙なニュアンスの違いを持つ言葉が多くなる傾向がある。例えば、タイ人や日本人の生活は米と深く関わっているため、米の種類や稲作に関する単語が多いということである。

一方、タイの気候は夏季、雨季、乾季の三季に分かれ、気温が安定するのに対し、日本は春、夏、秋、冬の四季に分かれ、気温の幅が広く、島国であるため台風も多い。タイと日本の気候が違えば、タイ語と日本語の天気を表す言葉の特徴も異なるのではないかと考え、調査を行った。

方法

日本語とタイ語で使われている「暑さ」、「寒さ」、「風」、「雨」、「雪」、「晴れ」、「曇り」の天気を表す言葉（単語、表現、慣用句など）について18名のタイ語話者と11名の日本語話者を対象にGoogle Formのアンケートで調査を行った。

そして、得られたデータから同じ意味を持つ日本語とタイ語の単語を整理し、回答の中にどちらの言語にも相当するものがない場合は、インターネット辞書で調べて追加した。最後に、整理されたデータの特徴を検討し、片方しかない時期や強度特定する言葉と比喩的な言葉に分け、表にした。

結果

言葉数に大きな差が見られるのは風、雨、雪、晴れ（表1）である。特に、日本語には雪を表現する7個の言葉があるが、タイ語には2個しかないのである。それに、唯一タイ語の方が言葉数多いのは寒さなのである。

また、固有の特定な言葉数と固有の比喩的な言葉数を比較してみると（表2）、日本語の方は特定な状態を表す言葉（表3）が多いのに対して、タイ語の方は比喩的な言葉（表4）が多いということが分かる。

結論：日本語とタイ語の天気を表す言葉は異なる特徴を持つ

表1：各天気の回答数（重複除く）

	言葉数	
	日本語	タイ語
暑さ	10	9
寒さ	7	9
風	18	12
雨	24	12
雪	7	2
晴れ	13	7
曇り	10	8

表3：固有の時期・強度特定する言葉

	特定な言葉	
	日本語	タイ語
暑さ	真夏日 猛暑日 夏日	なし
寒さ	真冬日	なし
風	木枯らし 春一番	なし
雨	五月雨 夕立 秋雨 時雨 狐の嫁入り	ฝนหลงฤดู 訳：季節外れ雨 意味：雨季外の雨 ฝนสั้งฟ้า 訳：天をおさらばする雨 意味：雨季の最後の雨
雪	なし	なし
晴れ	五月晴れ	なし
曇り	なし	なし

表2：日本語とタイ語が固有の特定な言葉数と固有の比喩的な言葉数を比較する表

特有な	日本語	タイ語
特定な言葉数	11	2
比喩的な言葉数	6	13

表4：固有の比喩的な言葉

	比喩的な言葉	
	日本語	タイ語
暑さ	なし	ร้อนตับแตก 訳：ヤシの葉っぱの屋根が破るほど暑い ร้อนปรอทแตก 訳：温度計が破れて水銀が出るほど暑い
寒さ	シベリア	ข้าวโลก 訳：極点 หนาวใจจะขาด 訳：心が折れるほど寒い หนาวจับจิต 訳：心を掴む、気に入るほど寒い หนาวเข้ากระดูก 訳：骨までに入るほど寒い
風	木枯らし	なし
雨	狐の嫁入り 天の涙	ฝนตกเป็นเยียวจ๊กจั่น 訳：蟬のおしっこのように降る雨 ฝนตกไม่ลืมหูลืมตา 訳：目も耳を開かずに降る雨 ฝนไล่ช้าง 訳：ゾウを追い出す雨 ฝนสั้งฟ้า 訳：空をおさらばする雨 ฟ้ารั่ว 訳：漏れている空
雪	なし	なし
晴れ	一円玉天気	ฟ้าเปิด 訳：開いている空
曇り	重い空	ฟ้าปิด 訳：閉めている空

考察

結果から、天気の言葉における、タイ語と日本語は異なるということが分かった。それらの違いについて、以下のように考察する。

まず、日本語の天気を表す言葉が比較的に多いのは、気候が多様で、文化と深く関わっているからだと考えられる。一方、Khatunら（2017）の研究によれば、気候によって気温に対する言語的な認識が異なり、バングラデシュ人は日本人より寒さに敏感である。従って、バングラデシュの気候に近いタイの人が寒さに敏感であるため、タイ語に寒さを表す言葉が多いのではないだろうか。

次に、特定の強度を表す言葉について述べる。Khatunら（2017）によれば、日本人は比較的に暑さに敏感である。それに加えて、日本の気温偏差の幅が広いため、夏日、真夏日、猛暑日、真冬日などの特定の温度を表す予報用語の必要性が高いと考えられる。一方、World Bank Group（2021）のデータに従って、1991年から2020年までのタイの平均気温偏差の幅は20度から30度であったことで、比較的に暑さに鈍いタイ人には特定の温度を表す言葉の必要性が低いと考えられる。

続いて、Yoo（2008）によれば、日本人はもののあわれの影響から、自然の変化、つまり季節の移り変わりを時間の経過と関連付けて考える。よって、時期を特定する天気を表す言葉が多いのではないだろうか。また、両国ともかつては農業国であったため、雨の状態を詳しく表現する言葉の必要性が高いと考えられる。

しかし、タイ語の比喩傾向の要因は不明である。推測するならば、コミュニケーションにおいて、日本人は効率を重視し、タイ人は自己表現を重視する可能性がある。

おわりに

日本語とタイ語の天気を表す言葉の調査結果から、日本語の天気を表す言葉は語彙が比較的に豊で、時期や強度など特定する傾向があり、タイ語の天気を表す言葉は比喩的な傾向があることで、想定した通りに、日本語とタイ語の天気を表す言葉は異なる特徴があるということが分かった。

文献

Khatun, Aklima, et al. "Differences in reported linguistic thermal sensation between Bangla and Japanese speakers." Journal of Physiological Anthropology 36. 2017 1-8. <https://doi.org/10.1186/s40101-017-0139-5>

World Bank Group, Asian Development Bank. "Climate Risk Country Profile: Thailand." World Bank (2021). <https://doi.org/10.1596/36368>

Yoo Ok-hee, "복합어 게어에 나타난 일본인의 시간의식." 일본어문학 41. 2008 305 - 334. <https://doi.org/10.21792/trijpn.2008..41.016>